

## 平成30年度 事業報告

財団法人シルクセンター国際貿易観光会館は、横浜開港 100 年記念事業として、神奈川県、横浜市及び関係団体の協力のもとに、生糸及び絹業を中心とする日本の産業貿易並びに観光事業の振興発展を図るために設立され、その目的達成のため昭和 34 年 3 月 12 日にシルクセンタービルをオープンし、長年、会館を運営してきました。

平成 26 年 4 月の一般財団法人への移行後も公益目的支出計画に基づく「実施事業」と「その他事業」の区分により、絹に関する知識の普及・伝承、絹製品の需要の促進、国際貿易及び観光の振興等の事業を積極的に展開しております。

平成 30 年度における各事業の実施状況は、次のとおりです。

### I 実施事業

公益目的実施計画の実施のため、公益事業として次の事業を行いました。

#### 1 博物館事業（継続事業）

絹知識の普及と需要の促進に寄与するとともに、魅力ある博物館づくりをめざし、特別展・企画展等の充実や、主に県内小学校を対象とした蚕やシルクの理解促進のための教育普及事業等に取り組みました。

#### (1) 展示事業

##### ア 常設展示

学校教育活動や生涯学習の場として活用できるわかりやすい展示、また、絹による服飾工芸品の鑑賞の場として魅力ある展示となるよう充実に努めました。

##### イ 春の企画展

「江戸の粋とデザイン ―小袖コレクションから―」

[会 期] 平成 30 年 4 月 28 日(土)～6 月 3 日(日)

日本の服飾文化への理解を深めていただくため、現代の「きもの」の原型であり、江戸時代の基本的な服装の形である小袖を、当館所蔵の 65 領を中心に、2 期に分けて展示しました。

##### ウ 秋の特別展

「第 25 回 全国染織作品展」

[会 期] 平成 30 年 10 月 20 日(土)～11 月 25 日(日)

次代を担う新進作家の育成等を目的に、絹を用いた染織作品を広く全国から募集し、厳正な審査のうえ、入選作品を一堂に展覧しました。

また、過去の大賞受賞作品等の一部も展示しました。

## (2) 教育普及事業

ア 「チャレンジ！かいこプログラム」

(ア) 蚕種配布

[期 間] 平成 30 年 5 月 17 日(木)～19 日(土)

県内の小学校を中心に、蚕の卵(蚕種)や人工飼料を販売するとともに、飼育方法や観察の仕方等についてのマニュアルを配布しました。

また、教員を対象とした講習会を開催しました。

(イ) 「かいこ教室」

[期 間] 平成 30 年 7 月 28 日(土)～8 月 12 日(日)

小学生等が蚕からシルクまで一貫して学べるように、保存蚕品種・野蚕の飼育展示、蚕の生体観察の他、繭人形、生糸のランプシェード、真綿のスタンドを作る体験等を実施しました。

(ウ) 団体見学・ワークショップ

[期 間] 団体見学 随時

ワークショップ 平成 30 年 4 月 14 日から平成 31 年

3 月 30 日まで、毎月 1 回程度開催

小学生等の蚕についての理解促進を図るため、小学校の団体見学を積極的に受け入れるとともに、子ども向けの繭や真綿を使った人形作りのワークショップを開催しました。

(エ) 「たのしいかいこの発表会」

[期 間] 平成 30 年 12 月 8 日(土)～平成 31 年 1 月 14 日(月・祝)

「チャレンジ！かいこプログラム」の締めくくりとして、子どもたちが作成した蚕の観察記録や、繭・生糸を使った作品等を募集し、展示、表彰しました。

イ 実演・講習会

くみひも作り体験、手作り真綿の実演・講習会、真綿からの太糸作り

実演、手紬糸作り実演・講習会、スカーフ染め体験、手描友禅色挿し体験などを開催し、繭、生糸、真綿、絹への理解促進に努めました。

ウ 連続講座 60 周年プレイベント「いざ横浜 一生糸を運ぶ」

[期 間] 平成 31 年 1 月 12 日 (土)、2 月 9 日 (土)、3 月 9 日 (土)

産地から横浜までの生糸輸送の手段であった陸運・水運・鉄道について、3 回連続の講座を開催しました。本講座は、平成 31 年度開催予定の特別展「横浜・生糸ものがたりⅡ」につながる内容としました。

エ シルクサロン

[期 間] 平成 30 年 5 月 26 日 (土)、8 月 25 日 (土)、12 月 1 日 (土)、  
31 年 2 月 23 日 (土)

学芸員等の専門分野を踏まえて、絹についてのわかりやすい講座を開催しました。

オ 博物館実習生の受入れ

博物館学を履修している大学生を、学芸員資格取得のための実習生として受け入れました。

(3) 連携事業

ア 「シルキーウィンターフェスティバル」

[期 間] 平成 30 年 12 月 8 日 (土)～平成 31 年 1 月 14 日 (月・祝)

子どもたちを中心に幅広い世代の方々のシルクへの理解促進を図るため、関東学院大学、横浜シルクミュージアムショップアソシエーション等と連携し、「シルキークリスマス」(12 月 16 日 (日))等を実施しました。

イ 「横浜絹フェスティバル」

絹とともに発展した横浜で、絹の魅力を発信するために組織された「横浜絹フェスティバル実行委員会」の一員として、繊維関係団体・企業、百貨店、ホテル等と連携し、大さん橋でのブース展示や「横浜絹遺跡をたどるツアー」への協力を行いました。

(4) 広報事業

新聞、テレビ、ラジオ等の報道機関、小・中学校、服飾関係学校、ホテル、旅行会社等への広報、ポスター掲示などの PR 活動を行うとともに、

ツイッターの積極的な利用や催し物案内の発行等に取り組みました。

#### (5) 開館 60 周年に向けた取り組み

平成 31 (2019) 年度に予定している開館 60 周年の記念事業として、博物館の収蔵環境の改修を中心とした実施計画を策定しました。

## 2 シルク等普及推進事業

神奈川県在地場産業であるシルク産業の振興を支援するため、業界団体等の宣伝、普及、販売促進活動等の支援に努めました。

### (1) シルク等普及活動事業

#### ア 「シルキーウィンターフェスティバル」の開催 (再掲)

特に若い世代を含めた多くの方々にシルクセンターに来館いただき、シルクの魅力等について広く理解していただくため、平成 30 年 12 月 8 日(土)から平成 31 年 1 月 14 日(月・祝)まで開催しました。

#### イ 「かながわシルクフェア」

神奈川県伝統産業であるシルク製品の普及・啓発及び販路拡大等を図るため、シルク製品に関わりのある団体及び神奈川県と連携協力のもと平成 31 年 3 月 1 日(金)～8 日(金)まで「かながわシルクフェア」を開催し、生糸、シルクの魅力の周知に努めました。

### (2) 施設を活用しての普及活動支援事業

#### ア シルクミュージアムショップの運営支援

横浜のシルク産業を支援するため、博物館内のミュージアムショップ出店業務を横浜シルクミュージアムショップアソシエーションに委託しました。

#### イ 催事場等による支援

県民・市民の文化芸術活動の振興、地域社会への横浜のシルク産業の振興等を図る活動を支援するため、催事場やギャラリースペースの貸与を行いました。

## Ⅱ その他事業

公益目的支出計画の安定的な実施のため、収益事業として次の事業を行いました。

### 1 部室賃貸事業

ホームページを活用したPRに加え、不動産会社に仲介及び広告業務を委託し、テナントの誘致を積極的に展開するとともに、良質な部室の提供や執務環境の整備に努め、入居率の一層の向上をめざしました。

### 2 附帯事業

入館者等の利便に供するため、立体機械式車庫並びに平面駐車場の適切な管理運営に努めるとともに、正面玄関前の平面駐車場はタイムズ24（株）に運営委託しました。